

人を想う気持ちを常に忘れずに



メディア事業部
BLENDAグループ・
machicoグループ
課長代理

門脇 佐知

門脇さんのプロフィール

1992年 4月 入社 営業部 配属
2005年 10月 第一子出産(産休、育児休業取得、翌年9月、第一子が亡くなる)
2006年 10月 職場復帰、企画部門に異動
2008年 11月 第二子出産(産休、育児休業取得)
2009年 8月 不定期勤務として職場復帰
2009年 10月 完全復帰、新規事業チーム(machicoグループ)へ配属
2011年 10月 課長代理に昇格
2013年 10月 新規事業チーム(BLENDAグループ)立ち上げ
現在に至る

で片道約1時間半かけて通勤していますが、出産当時山形では保育所が不足しており待機児童が非常に多く、共働きでしたが結局2年間、保育所に入ることができませんでした。このため、市内に住む実家の母に面倒を見てもらいました。その後、保育所の一時預かりの利用、特定保育(利用時間の制約がある保育制度)を経て、子どもが3歳になった時ようやく保育所に入所することができました。現在は私が遠距離通勤していることもあり、朝は夫が子どもを保育所に送り、帰りは、週4日は母が、残りの1日は夫が迎えに行き夕食を作って食べさせています。私は職場復帰当初は2時間の短時間勤務をしていました。その後1時間の短時間勤務とし、現在はフルタイムで勤務していますが、時間の制約があることには変わりありません。独身時代には残業もしたいだけすることができ、夜遅くまで勤務することもありましたが、子どもが生まれてからは、時間の制約を常に意識するようになっています。限られた時間の中で、いかに効率良く仕事を進め、時間内に終わらせるか、ということに心がけています。残業が多くなりがちな業務内容ですが、私の部署に関しては、私に時間の制約があるため、部下も時間の制限を意識してより効率的に仕事を進めるようになったと感じています。

Voice

これから出産・育児をする後輩に伝えたいこと

「自分がどうしたいか」が一番考えることが大事だと思います。そして、それを叶える方法は必ずあるので、じっくり考えて欲しいと思います。また、物事を考えるときに「普通は」とか、「みんなは」という考え方をよくしてしまいがちですが、それを「自分だったら」と考えることが大事です。

結婚しても、出産しても働き続ける道は必ずあると思います。迷う時にはまず「自分はどうしたいのか」を考え、実現するために前に進むことです。そうすれば、助けてくれる先輩や周りの人が必ず出てきます。そして、自分もそのような人間になれば、と思っています。

仕事を通じて受けたことをお返ししていくために

ここまで働き続けてこれたのは、営業の仕方もわからなかった私が一から営業スタイルを築き上げていくプロセスを、会社もお客様も暖かく見守って育てて下さったことに対して、少しでも恩返しをし、また培ってきた力を役に立てたい、と考えるからです。また、人との関係、人を想う気持ちは常に意識し、忘れずにいようと思っています。

第一子が亡くなった時には、人間として生きていくことができないのではないか、と思うくらい辛かったのですが、心配し

て下さる会社の仲間がたくさんいて、結果的に生きて、仕事を続けていくという選択をすることができたのは、周囲の皆さんのお陰であると思っています。その根底にある人との関係や想いに、応えていきたいと思っています。私は、不幸な出来事も嫌なことも前向きに捉えるマインドの強さを持って生きたいと考えています。マイナスの経験をプラスに変えていく力をこの仕事を通じて培ってきたので、これまでの経験を、不幸な出来事として終わらせるのではなく、仕事を通じて皆さんに少しでもお返ししていきたいと考えています。

働き甲斐があり能力を発揮できる 職場環境を目指して



経営企画担当
取締役
今野 彩子

たと言えます。また、当時の社内の理解も、家庭と仕事との両立ということに追いついていなかったように思います。しかし、門脇が妊娠中も産休に入るまで働き、そして育児と仕事を両立させながら成果をしっかりと出しているのを見て、後に続く女性従業員が始め、社内の理解も少しずつ変わってきたように思います。

すべての社員が働きやすい職場を目指して

当社は男女ともにすべての社員が働き甲斐があり、能力を発揮できる職場環境を目指しています。この中で、子育て中の女性従業員も活躍できるように、両立支援のための各種制度を設けています。法定を上回る制度として、最長2歳までの育児休業やつわりがひどい場合に取得できるプレママ休暇、子が小学校就学前まで利用できる勤務時間短縮措置などがあります。

現在では、すべての職種において女性従業員が活躍しています。女性従業員を含めたすべての従業員が働き続けられる職場づくりのため、これからも各種制度を、より利用しやすいものにしていきたいと考えています。

女性従業員も長く働き続けられるように

門脇が入社した当時、女性従業員がいる部署・業種はDTPオペレータ(Desk Top Publishingオペレータ、版下製作業)、管理部門、営業部門に限定されていました。また、結婚を考えた時点で退職する人も多く、女性従業員の平均的な勤続年数は4年程度だったと思います。営業職などで磨いたスキルはいろいろなところで応用できるのですが、せっかくキャリアを構築した女性が、これからさらに成長できる、というところで退職してしまうことを非常に残念だと考えていました。当時は法定の両立支援に係る制度は整備していたのですが、利用する人がいなかったため、実質的には機能していなかっ

企業プロフィール

株式会社ユーメディア

- 設立：1960年
- 本社所在地：宮城県仙台市
- 事業内容：印刷・同関連業
- 従業員数：125名(うち女性31名)

My Story

私が就職先をどこにするかを決める時、自らの力で何かを生み出すことができる仕事に就きたいと漠然と考えていました。一方で、3年くらい働いたら結婚して退職し、主婦になるという思いもありました。私の母は教師として定年まで仕事をしており、小さい頃は寂しい思いもしたため、私は専業主婦として家庭的な生活を送りたいと考えていたのです。縁あって入社した会社で、まさか20年以上も働き続けることになるとは、その時は想像もしていませんでした。

入社当時、女性従業員は多くなく、また女性営業職も一般的ではありませんでした。また、職場に先輩の女性はいましたが、同じラインにはいなかったため、私に仕事を教えてくれたのは、男性の先輩であり、またお客様でした。このような環境の中で、次第に仕事を通じ、わからないことを勉強して身につけていくことの面白さや、人と関わりを持つ楽しさを感じるようになりました。当時は、業界的にも女性営業職は少なかったため、評価していただけて優位性を感じることもあった一方、若い女性であることから相手にしてもらえないこともあり、苦労もしました。仕事を続けるうち、いつしか自分も、この会社ですべて働き続けよう、と考えるようになりました。結婚する時も、妊娠した時も、働き続けると決めていました。

当社で出産休暇・育児休業制度を利用したのは、私が初めてでした。前例がなかったため、妊娠中、そして産後もどのようにして働いていくべきか、会社に迷惑がかかるのではないかと、いろいろな悩みました。また、職場内の理解を得るのも苦労しました。上司も、どのように受け入れるべきか、わからなかったのだと思います。

時間の制約を意識して仕事を効率化

私は家族の事情により出産を機に山形に転居し、高速バス